広報 かわにし

（毎月10日発行）

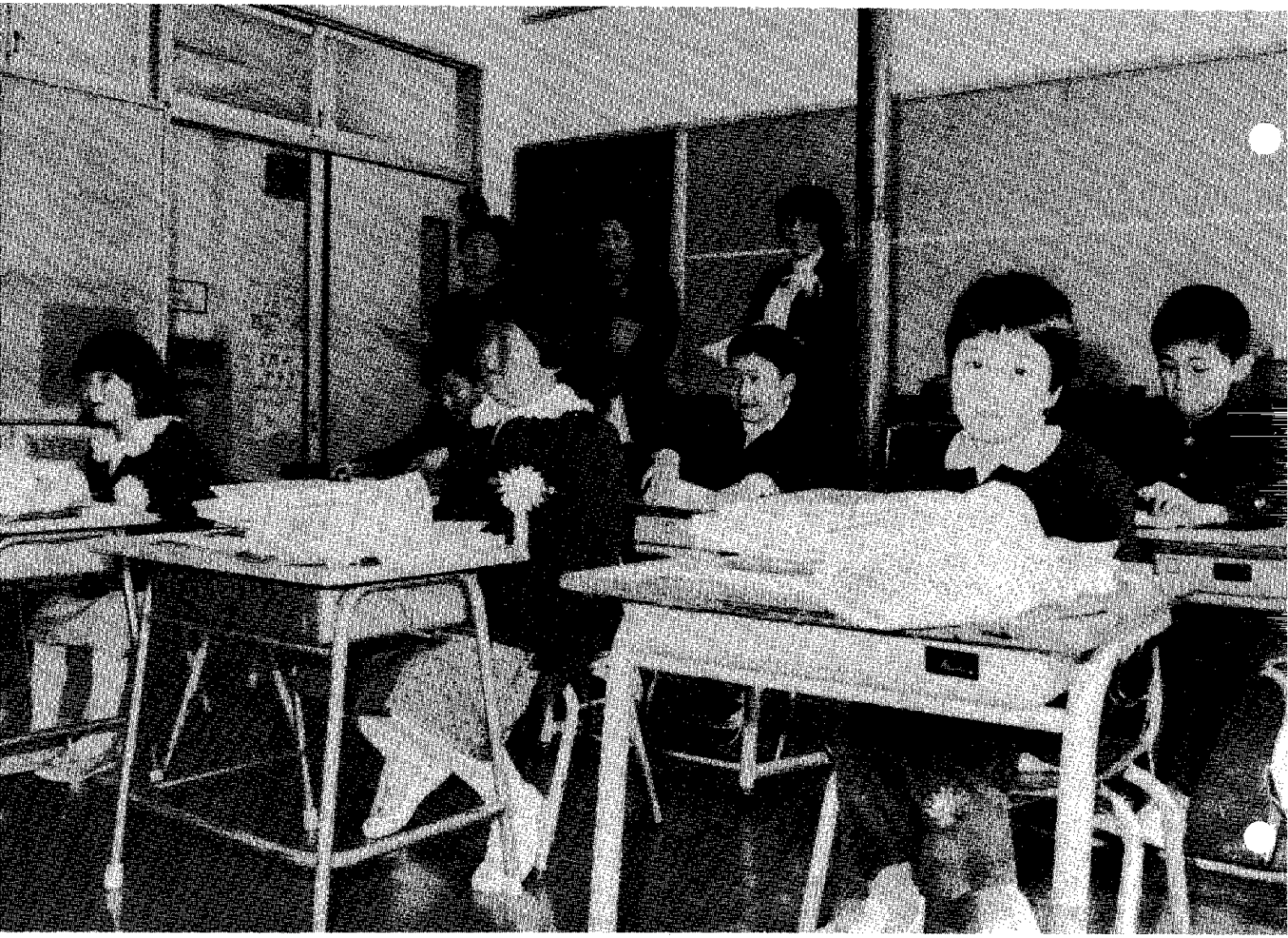
昭和59年 4/10 No.308

人口の動き
— 4月1日現在 —

男	4,837	(−36)
女	4,928	(−48)
計	9,765	(−84)
世帯数	2,335	(−8)

（）前月比較

948−01 新潟県中魚沼郡川西町大字水口沢12番地 （☎0257−68−3111）
発行 町長 南雲春雄 編集 総務課文書広報係 印刷 白南風社



4月の休日救急医

15日	池	田	医	院（本町西）
22日	中	条	病	院（中 条）
29日	富	田	医	院（神明町）
30日	山	口	医	院（袋 町）

5月上旬の予定

3日	大	島	医	院（川原町）
5日	至	誠	堂	医院（西浦町）
6日	第	二藤巻	医	院（上 野）

春の全国交通安全運動

4月6日〜4月15日　春は、新入学（園）児が慣れない道を歩きます。車の運転には「思いやりの心」がたいせつです。

今年は、男子八十二人、女子七十人、合わせて百五十二人の小学一年生が町内に誕生しました。

四月四日は日和りに恵まれ、各小学校で入学式が行われました。ピカピカの新一年生と、着飾ったお母さん方の姿とで、町中がパッと華やいだ一日でした。

白倉小学校には三人の女子が入学しました。（全校児童二十七人）

十時からの入学式では、校長先生や上級生から、「なかよく勉強しましょう」と励まされました。

教室は二年生といっしょです。二年生は男子だけが三人です。担任の村田先生から教科書を受け取り、みんなでキラキラ星を歌いました。

59年度の町づくりスタート

一般会計予算は 27億2,500万円

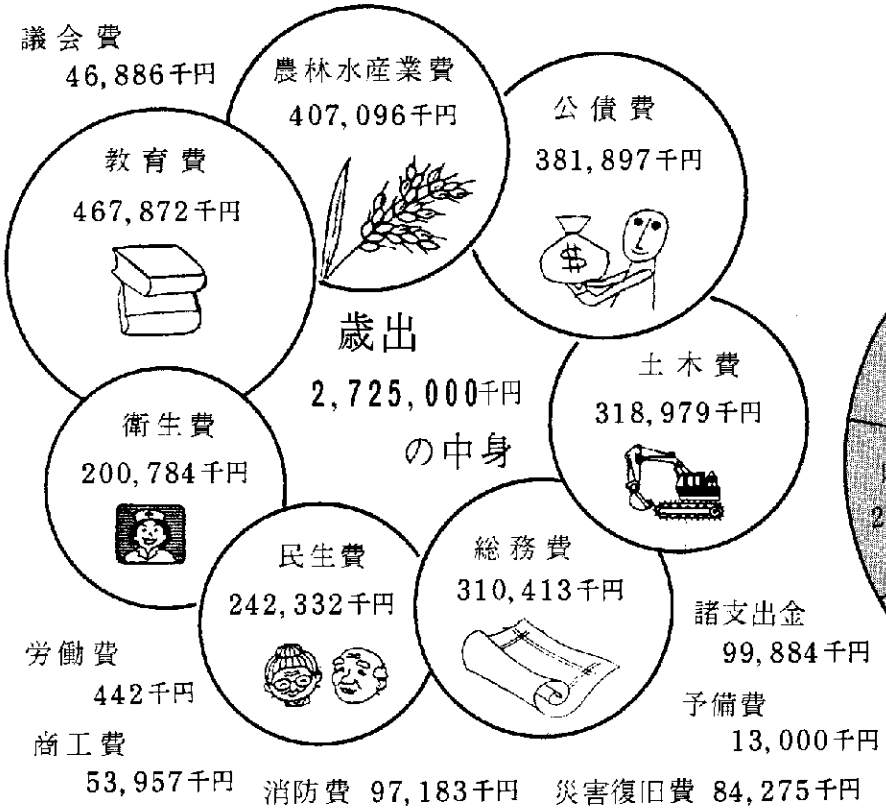
新年度予算が決まり、五十九年度の町政がスタートしました。

一般会計は二十七億二千五百万円、七つの特別会計が十二億四千五百三十九万四千円、合わせて三十九億七千三十九万四千円の規模になります。（水道企業は含めていません）

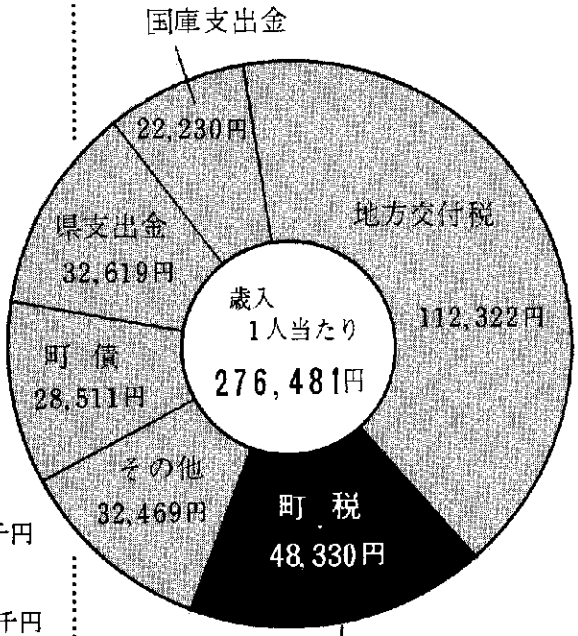
財政事情の悪化により、厳しい内容の予算ですが、所要の事業・事務に財源の重点的・効率的な配分をしたものです。

「うるおいのある豊かで活力ある町づくり」のため、皆さんの協力をお願いします。

歳出 2,725,000千円の中身



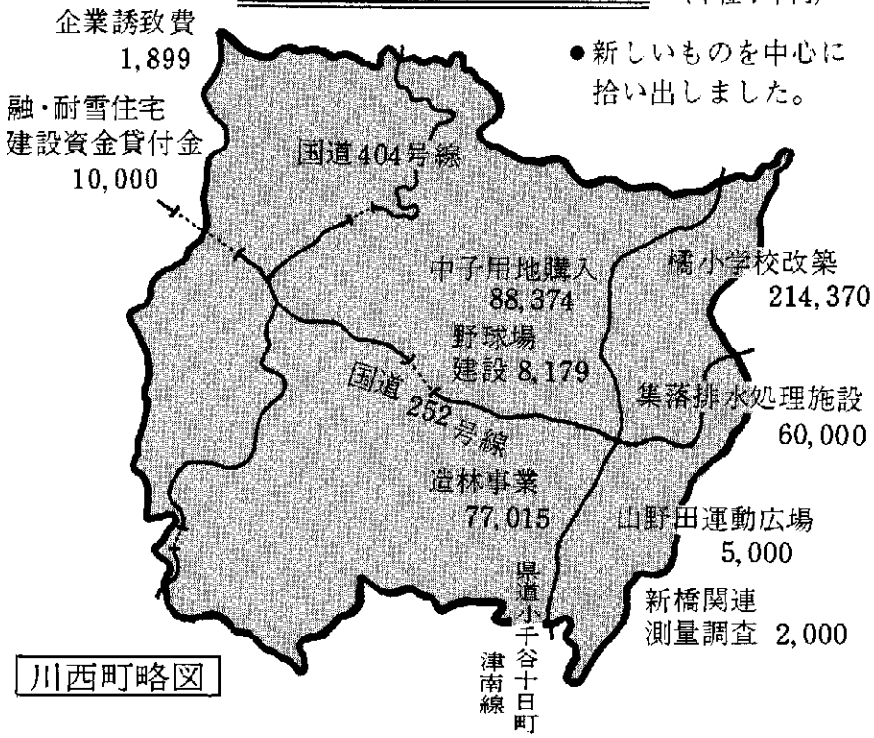
町民1人当たりの歳入



59年度の主な事業

（単位：千円）

●新しいものを中心に拾い出しました。



川西町略図

町税の内訳

町民税	16,723円
固定資産税	25,786円
軽自動車税	985円
たばこ消費税	2,841円
電気税	1,963円
木材引取税	4円
特別土地保有税	28円

活力ある町づくり

重点項目は 克雪対策の強化など

《施政方針の概要》

昭和五十九年度の予算編成作業は、厳しい環境のもとで進めなければなりませんでした。

中でも、国家予算や地方財政計画が、極めて深刻な財政危機に直面し、ともに昭和三十年以来の超緊縮型となったことによる影響は大きくのしかかりました。

さらに、地方財政対策中、交付税特別会計の借入金による財源補てん措置が取りやめとなり、従来になく地方団体の責任のもとに、自立型の予算編成が要請されたといえます。

こうした情勢に対処するため、町臨調答申事項の再確認、それに庁内事務改善プロジェクトの協議結果を踏まえ、経常事務費や組織人員の圧縮はもとより、歳出全般にわたる見直しにより既定経費の縮減を図りました。

施政のスローガンである「うるおいのある豊かで活力ある町づくり」を目ざして、必要な公共事業や県単事業の受け入れはもちろん、投資的経費の確保を図りながら、町勢の限りない伸展を期し、企業誘致と都市計画の専門職を新設し、新たな決意をもって新年度に臨みます。

施政方針を述べる町長

新年度予算は、第四次総合開発計画の第一次事業計画の基本方針に沿って、財源の重点的、かつ効率的な配分に努めました。

新年度の政策のポイントを要約すると次の五項目になります。

①克雪対策の強化
②産業の振興
③教育施設の充実
④生活環境の整備
⑤行財政の合理化

①克雪対策の強化

町勢伸展の最大のネックは雪であり、過疎化現象の要因も雪に起因するとの認識に立って、生産活動と暮らしを守るために克雪対策にいっそうの努力をします。

融雪雪住宅の建築には、最高三百万円の融資制度を新設します。また、地域防雪体制整備事業の継続、道路除雪体制の強化を図り、住民要望に即応するよう努力します。

道路除雪に対する公共負担と受益者負担を明確にするよう、住民協議をしたい考えです。

今冬は、消雪パイプが機能を発揮しなかったところが多くあり、特に千手地内の県道ではさんざんの状況でした。これは、地下水の絶対量が不足していることによるものです。それに道路幅員の狭さが加わり、バス運行が一時ストップしてしまいました。

国県道の拡幅と流雪溝の問題は速やかに都市計画事業の導入により対処すべきとの判断に立ち、新年度から事業導入の準備に入ります。

②産業の振興

活力ある町づくりの源泉は、生活の基盤である産業の確立に求めなければなりません。

地場産業の育成強化と並行して、企業誘致によって労働の場を広げることが過疎防止の決め手です。

川西町に適合した規模の企業誘致によって、若者の定着を図り、活力ある町づくりを目ざしたいと決意し、新年度から企業誘致担当を設けて対応する考えです。

また、町農業の主軸の水稲作は、水田利用再編対策第三期に入り、いよいよ総仕上げの体制を求められています。このため、一般財源で前年比六〇パーセント増の措置をして推進を図ります。

各集落の生産組合は、町農業の振興のカギを握っていると考え、育成強化に努めます。

商工振興策は、産業育成資金の枠拡大、商店街の駐車場造成などに力を入れます。

林業では、引き続き町行分収造林を積極的に展開します。新年度は魚沼地方二市三郡の植樹祭を誘致して、造林思想の普及向上を図るほか、上野小学校に緑の少年団を結成し、次代を担う若者の育成、労働を通じての人づくりに資したい考えです。

このほか、松葉荘や川西ダムの周辺などの観光資源の開発を展望し、節黒城跡の松保存対策や観光パンフレットの作成にも取り組みます。

③教育施設の充実

個性豊かな人づくりのために、川西町はこれまで教育施策の充実にことさら力を入れてきました。

新年度は五十八年度から継続している橘小学校改築と周辺環境の整備に努めます。さらに学校改築の総仕上げとも言える上野小学校改築の準備年次として、必要な措置を講じたい考えです。

信濃川河川敷運動場が流失したため、中子地区に野球場を大・小各一面造成する計画です。

青少年の健全育成は、家庭、学校、地域住民、それに関係機関が一体となり進める必要があります。

各種の学級開設も引き続き計画されていますが、特に読書普及については、寄贈された巣鴨文庫を中心にいっそうの充実を期する考えです。

体育活動では、五十九年度は町民体育祭開催の年に当たりますので、町民皆スポーツ宣言町にふさわしい大会にしたいものと念願しています。

（次ページへ）

〈施政方針〉

④生活環境の整備

健康と安全、快適性を追求しない人はいません。

農村総合整備モデル事業は、その発想や補助率の高いことで、農村を抱える自治体のせん望の事業でした。その後、国の財政悪化という事情もあって、当初の予定どおりに事業が進ちょくしません。この際抜本的な内部整理を実施し、千手地区のフラッシュ、上野地区の集落排水施設の早期完成を図る考えです。

畜産公害に対しては、住民の生活環境を守るため県の公害規制区域の指定を受けて、積極的に業者指導の体制を作りたいと考えます。

信濃川の新架橋問題は、県の指導と十日町市との協議で位置は国鉄軽便鉄橋の下流付近とほぼ合意を得ています。川西町側の県道取り付けは、約四十メートルの段丘を克服することが大きな課題です。五十九年度に調査費二百万円を計上しました。

山野田地内の国鉄用地払い下げ地を利用して十五世帯分の宅地分譲を実施したり、公園、運動場予定地の整備もします。

⑤行財政の合理化

川西町の財政事情は、「近い将来に事情が好転する確実な見通しはない」ということで、言い替えますと財政事情をよくするためには自らの努力以外に期待するものは皆無に近いということです。

行財政改革の具体例としては、①機構改革によって、全体として機構を大幅に簡素化し、人員の縮減を図り人件費総額を抑制します。学校給食施設の段階的な集中化、月見荘の休館、民俗資料館田戸分館廃止も予定しています。②起債発行計画の見直し、起債発行額の抑制は、適債事業の選別を注意深く行うなど総額の抑制を基調に公債費の増加を避ける必要があります。③町臨調答申の内容を踏まえ、法令外団体補助の規制を行います。④各種委員会、協議会等の統廃合を推進させます。⑤道路除雪に対し、公共負担と住民負担の区分を明確にする考えです。⑥町財政を大きく圧迫していた中子地区の土地取得費を五十九年度で完了させます。

などが上げられます。

ほかの重要課題

■中子地区の利用

薬科大学誘致構想も前進していません。土地を譲渡してまで誘致する価値があるか再検討をする必要があります。

■国鉄第五期工事

急速に具体化するものと感じています。町の中心を縦断する水路トンネルは、町民の犠牲の上に立って築造されることのないようにしなければなりません。

■巣鴨信金保養施設

上越新幹線の上野乗り入れを機会に社会コンセンサスを得て着工できるようにしたい、との巣鴨信用金庫側の弁明がありました。

■霧谷への産業廃棄物問題

十日町市下水道の汚泥処理を霧谷ゴミ処理場でしたいとの問題ですが、町としてはいささか迷惑の話です。十日町市と話し合い、関係住民に迷惑のかからないよう考えます。

傍聴の人も真剣そのもの

特別会計

国民健康保険

四七八、五三五千円

保険料をアップ

この会計は、医療費が急増していることから、急速に運営が苦しくなっています。国の財政措置にも厳しさが加わり国民健康保険は大きな転期を迎えている感がします。

国保の医療費軽減を図るために、先に老人医療費を分離し、本年七月からはさらに退職者医療制度を実施する予定ですが、国保会計に余裕を与えるほどの影響は出てこない見通しです。

医療費の上昇傾向は避けられない情勢です。このため前年比二〇パーセント増の保険料の引き上げを行わざるを得ませんでした。これによって、一世帯当たりの保険料は十三万五千六百八十円、一人当たりでは四万一千四百八十五円になります。

国保診療所

九〇、三七六千円

厳しい事情のもとに

薬価基準の引き下げは、極めて大きな診療報酬減となります。また給与費の当然増などから診療所会計収支も厳しい事情のもとにあります。

診療報酬の患者負担分は窓口徴収を実施するとか、数々の課題があります。診療所運営協議会などの協議結果をもとに、医師の協力を得ながら改善に努めます。

へき地出張診療所

二〇、八九〇千円

地域住民の医療確保

確実に不採算会計ですが、地域住民の医療を確保するため、欠くことのできない会計です。

国・県の財政事情もあり、補助金が期待できませんが、いっそうのご理解をお願いします。

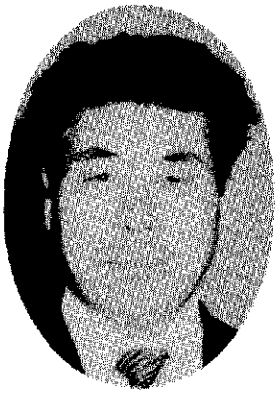
老人保健
四四七、七七八千円
健康管理をしっかりと

老人保健は、七十歳以上の老人と、六十五歳から六十九歳までの寝たきり老人を合わせた千五十五人を対象に、その医療費の全額を見込んだ予算です。この会計も国保会計と同様、医療費が非常に増高しています。

予算額は五十八年度より四千六百七十万三千円の増額です。医療費の支払財源としては、社会保険診療報酬支払基金が七〇パーセント、国が二〇パーセント、県と町がそれぞれ五パーセントという負担率になっています。

歳入のほとんどが支払基金の交付金や国・県の医療費負担金で賄われており、精算方式が採られている関係で過不足の精算は翌年度で行われるため、当該年度の不足額は町が一時立替えなければならないのが現状です。健康管理をしっかりしていただき、不足額が出ないよう念願しています。

予算成立の時



滋野一郎さん
全国町村議会 議長会表彰を受賞

滋野一郎さん（野口）が、このたび、全国町村議会議長会の自治功労者表彰を受けられました。

滋野さんは、昭和三十年に橘村議会議員に当選、三十一年からは川西町議会議員として引き続きご活躍されています。

今回の表彰は、議会議員として三十年以上在職し、町村自治の振興発展に寄与された人に贈られたものです。滋野さんは四十八年から四年間副議長を務められたので、二年分が加算となっています。

地域休養施設
六九、五六三千円
真価を問われる年

昨年六月末オープン以来、設置目的を十分に果たし喜んでいます。

いよいよ第二年次に入り、五十九年度の経営こそが、施設の真価を問われるところです。展望台を含む付近一帯の観光開発や、国有地払い下げ後の土地利用など、多面的に利用できるよう対応する必要を感じています。

予算内容は、公債費の全額と付帯工事費若干額との合計額を一般会計から繰り出すほかは、事業収入によって賄うもので、半独立採算的見地から編成したものです。

農業共済事業
九三、八五二千円
損害防止事業を充実

農業、それに農業共済事業を支えてきた稲作・養蚕・畜産の三つの柱が社会経済情勢の変動によって大きく変化しています。また、水田利用再編対策も第二期に入り、農畜産物輸入枠の拡大に見られるように、農業生産の方向は大きな変革を迫られています。

水稲共済は、生産組織や基盤の確立により、これからは制度内容の検討と損害防止事業の充実を図りながら、安定多収の米づくりを推進していきます。単位当たり共済金額を一キロ三円引き上げ二百九十四円とし、補償の充実と拡大に努めます。

畑作物（大豆）共済は四年を経過し定着してきました。栽培指導の徹底と事業規模の拡大を図ります。

簡易水道事業
四四、四〇〇千円
五〇%が繰入金

上水道第二期拡張工事の完了に伴い、中仙田・赤岩・田戸簡水を上水道に吸収統合したこともあり、前年度比一七・三パーセント減の予算規模になりました。

歳入のほぼ五〇パーセントを一般会計からの繰り入れに求めています。使用料金収入は歳入総額の四二・一パーセントです。

ねんきん ふくし

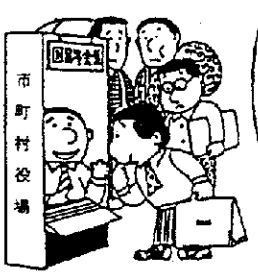
出稼ぎご苦労様でした
年金再加入の手続きをお願いします

出稼ぎから帰られた皆さん、たいへんご苦労様でした。出稼ぎ先で厚生年金に加入していた方は、帰ったら早速国民年金に加入しなければなりません。

国民年金の加入期間と厚生年金の加入期間は将来合算され通算老齢年金を受けられるだけでなく、万一、障害者となった場合に支給される障害年金の大事な対象期間となります。

また、出稼ぎから帰った時に「国民年金の加入届」の手続きをしていないと、年金の加入期間に空白を作るだけでなく、いずれの制度からも年金が受けられなくなることがあります。

老後の支えである年金を失うことのないよう、出稼ぎから帰ったら「年金手帳」を持参のうえ、役場住民係へ加入手続きにおいでください。



質疑 対する

◇保坂次夫議員
①産業廃棄物である十日町市下水道の汚泥捨場は
②春耕対策に予算措置を
③月見荘運営状況と対策は
④発電所第五期工事問題

□南雲町長

①昨年の三月、根津前町長に対し、十日町市長から汚泥を霧谷不燃物処分地に埋め立てたい旨、正式のお願いがあった。

前町長は、(1)住民に不安を与えないこと。(2)埋め立て地下流への汚水液の浸透を十分監視すること。(3)埋め立て方法は適正のこと。などの五項目を条件に基本的には了解したという。

十月の市側との話し合いでは、町長の意見としてこう述べた。(1)前町長との了解事項は引き継ぎを受けていない。条件内容は具体性が乏しい。(2)町長として公式に埋め立て処分の了解は与えられない。(3)このことについては、議会や地元住民に説明し、了解を得る必要がある……。

現境対策の資料を出してもらいそれを検討した上で、関係住民と話し合うことが専決である。

②五六豪雪のときより今年のほうが雪消えが遅くなるようだ。

五六豪雪の春季対策は県補助金と農家の持ち出しとで、実質的には町費の支出はなかった。

五六豪雪の例によるか、町費を支出するかは、四月六日の議会全員協議会で協議していただきたい。

町道の舗装の傷みも大きく、このまま放置しておけない事態となっている。農作物対策と併せて協議願いたい。

③月見荘は昭和四十五年に開館した。現在は類似施設の整備などで利用者が少なくなっている。利用割合も地元の老人クラブの占める率が高くなり、全町的な施設としての意義が薄らいできた。臨調答申もあり、内部で検討、協議の結果、休館することにした。

④五期工事は、近々国鉄からのアプローチがあると感じ取っている。導水路は川西側にあり、川東より関係が深い。基本的には、町民の犠牲のもとで発電所が作られてはならない、ということである。

◇登坂茂議員
①町税等に補正財源としてのゆとりがあるか
②消雪対策に町費補助を行うのか
③流雪溝の早期整備と川西ダムの水の利用
④土地改良区に対する補助金増額の考えは

□南雲町長

①まことに窮屈な予算である。地方交付税は若干の留保はあるが、あまり期待できない。繰越金には若干あるはず。しかし、へき診の赤字補てん分くらいである。町税も国の見込みより多く、かなり厳しい。

あまり期待はできないが、若干の留保はあるといったところ。

②ある程度先を見通しての対策が必要である。豪雪対策関係の基金を設けたい。

③川西ダムの用水の目的外利用が認められるのであれば、流・消雪に使いたい。町として前向きに対応してもよい。土地改良区も遊休水で経常的収入源となれば、相互にメリットがあるものと認識する。

④法令外団体補助については、漸次軽減し、または廃止するように措置しなければならない。

現状では農道維持修繕委託料として年額五百万円、それに職員一人を派遣しているほか、公共施設の利用などに特典を与えている。

経常的な費用は減額、廃止の方向に持っていく。

◇若山三郎議員
①企業誘致と中子用地の活用
②都市計画と克雪、消雪パイプの管理方法
③広域観光事業と町の位置付け

□南雲町長

①中子用地については、昭和五十一年以来一般会計から五億円余を支出することになる。社会福祉法人あかね会に譲与した約四万平方メートルのほかは処分が定まっていない。私立学校誘致ということで買収したが、いずれも不成功だったり、話は継続しているものの進展しないものばかりだ。

町財政に多大な影響を与えており、できれば有償売却したいが、先の見通しも現段階では立たない。

新しい展開を模索しているところで、心当たりやアイデアがあったらご教示願いたい。

企業を誘致し、利用するという決め手はない。

②これからは雪と共存し、積極的に利雪する時代といわれている。

五九豪雪の尊い体験から、県道小千谷十日町津南線の全面改良を積極的に進めなければならないと痛感している。その手段として都市計画街路事業で実施するのが最も近道だと県当局の指導も得ている。

新年度から建設課に計画係を設置して、この問題を中心的に検討していきたい。

消雪パイプの管理は県とも協議したい。

③十日町・中魚沼・南魚沼・松代・松之山の十市町村の行政・観光協会・商工会によって南部観光協議会が組織され、広域観光ルートの設定などに取り組んでいる。

川西町は観光資源に乏しい。地域休養施設付近一帯をファミリー的観光ゾーンとして整備することや、西の山を植林作業道の利用などで散策コースにしたい。

民間の力や観光協会の力を借りることが必要である。

◇戸田哲次議員
①克雪対策全般（都市計画事業、流・消融雪溝の整備と利用）
②老人家庭奉仕員派遣に伴う費用徴収に弾力を

□南雲町長

①都市計画は新年度から受け入れ準備に入る。新架橋、県道改良、流雪溝など諸々の問題についてはこの事業でしか対応できない。青写真は二年くらいの時間が必要。前進地視察などでいいものは取り入れるという積極的な姿勢で臨む。

屋根雪問題は大きな課題として取り組む。消雪パイプにフルシーズン作動しないものが出ているのも問題だ。

行政の負担と受益者負担の範囲

総括予算に

をキチンと決め、次のシーズンから適用したい。

②健康で長生きするのが理想である。今後の高齢化社会到来を考え、負担できる人には応分の負担をしていただくことが原則と考える。長期的な財政の見通しの上で前向きに検討する。

◇上村広治議員

①五九豪雪に対する措置

②克雪シンポジウム参加の考え方

③職員研究の充実

④伝票会計導入と事務改善の内容

⑤国民健康保険特別会計への対応

□南雲町長

①町としては、消雪剤散布についての措置は四月六日の全員協議会に諮りたい。消雪パイプの井戸の堀り直しは難しい。町道除雪の業者委託は積極的に実施したい。都市計画についてはモデル事業との競合をまず解決しなければならない。高床式住宅の固定資産税減免をとのことだが、超過課税を年次的に標準課税に持っていくことが先である。

②雪と共存する考え方が必要。進んで参加し、いいところは吸収し、町に生かしてほしい。

③職員の資質向上は常に心しなければならない事柄である。市町村職員研究には積極的なほうである。接偶は極めて重要なことで、庁内で研究したい。

④新年度からの機構などにも、事務改善プロジェクトの第一次答申を受け入れている。

答申は、(1)行政組織の見直し、(2)各種審議会・委員会・外部団体の見直し、(3)行政の減量効率化、(4)窓口事務の改善、(5)事務用機器の活用改善、(6)事務簡素化・効率化による経費の節減、の六項目にわたっている。

伝票会計の導入もこの中にうたわれている。

⑤国保会計については繰上充用の要否は決まっていない。五十九年度への繰越金までは出ない見通しである。新年度は二〇パーセントの保険料の値上げ（一人当たり約二千円）を行い都市の水準までにしなければならない。それでも年度末の収支の均衡が心配される。

◇小林寅雄議員

①道路除雪の強化と対応

②新十日町大橋（仮称）の取付道路の調査は

③民有林（モトクロス場）造林事業は

□南雲町長

①これからの雪処理は遊休水の利用などを前向きに進め、次のシーズンまでにはっきりした方策を立てたい。

モデル事業での流雪溝の整備を含むフラッシュ施設の整備は、上野の下水道とともに一日も早く完成させたい。

除雪はできるだけ民間委託としたい。町としては専用機を整える。

②新橋の持つ意義としては、(1)現橋の交通渋滞を解消する。(2)十日町市との距離をすべての点で短縮する。(3)町の開発を促進する。(4)十日町市と有機的な関係のもとで開発。が考えられる。

したがって、この橋の位置と取付道路は、町の将来に及ぼす影響が極めて大きい。そのため、十分な調査研究を重ね決定する必要がある。

③モトクロス場は今までは個人的な施設であった。今後は継続を前提として、管理運営する組織を定めたいと考えている。その一つとしては地主による団体、あるいは商工会の有志や西の山開発委員会などからお引き受け願えれば、事務局は町とか商工会で担当する方法があると考える。

モトクロス場は県の埋蔵文化財指定地であるので、認可を受けないと植林等はできない。

◇小海貞二議員

①国鉄発電所水路に架かる老朽橋対策

②流雪溝に対する考えは

□南雲町長

①小根岸の弁天橋は放水路東方にある耕地に通作する通路であり、関係農家には重要な橋である。国鉄から町へ譲与され、管理責任が生じ、数回の修繕をしている。

建設省の堤防管理のための道路新設などに相乗りできる方法はないものだろうか。永久橋には現在のところ無理のようだ。

②雪処理の手段として流雪溝による方法の効果は優れている。しかし、いくつかの条件が満たされなければならない。大量の水を得、それをできるかぎり長距離利用できる地形と流末に恵まれていることである。

将来の町づくりには雪処理は必要不可決の要件であるので、衆知を結集して対策を検討する時期と考えている。

◇田中与三郎議員

①月見荘の休館に伴う老人クラブの公共施設利用対策

②老人に対して松葉荘の入浴料半額券が発行できないか

③二六公園の整備を

④千手城址の整備と観光ルートの開発は

⑤独立公民館を設置する時期ではないか

□南雲町長

①月見荘休館による余剰経費は敬老会費用などに充てたい。

松葉荘にテニス場、ゲートボール場を造成したい。割引券なども喜ばれるアイデアだ。

②老人の日設定なども内部で検討したい。

③二六公園を管理運営する団体とも協議したい。

有効な運営と適切な管理をする目途がない限り手を付けるべきでない。

④千手城址は埋蔵文化財指定地域であるため、認可がなければ道路開削などはできない。

モトクロス場のふもとの部分は造林するので作業道も必要になる。この作業道を利用して西の山一帯の観光開発をすべきだと、総合開発計画でも未来像として捕らえている。

⑤独立公民館は財政的にも容易でない。基金から準備していかねばならず、研究課題として取り組みたい。

（次ページへ）

総括質疑

（前ページから）

◇高橋礼三議員
①月見荘の今後
②企業誘致の経過と今後の見通しは

回 南雲町長
①松葉荘オープン後は運営を根本から再検討すべきであるとの臨調答申もあり、新年度から休館としたい。伊友部落から引き受けていただければそのような形で閉鎖、譲与に持っていきたい。
②川西町の現況から一時に百人単位の企業を求めても難しいので、町の体質に合った公害のない企業で、しかも男子主体であればなおよい。
専門担当を設けて積極的に対応していく。

◇押木元男議員
①融雪災害予防と予算付け
②企業誘致係（開発係）の内容

回 南雲町長
①過去に融雪水の増水によって家屋浸水のあった箇条、坪山、沖立については流水路付け作業にかかる段階である。
危険な場所があれば至急同様な方法が取れるよう措置したい。
一般の融雪災害は有効な予防方法に乏しいのが実態であり、発生後に復旧に入るパターンとなる。
②現存企業の拡張と新企業の誘致を扱うことになるが、相手の出現を待つのではなく、積極的に町からアプローチする方法を取りたい。
県も新年度から専門の課を設置するとのこと。これらとも進んで交渉を持ちたい。
企業誘致は現状では町勢伸展のための最も重要な直接手段である。

◇小林正人議員
①克雪対策と五九豪雪の今後の対応
②企業誘致問題
③町民体育祭のアイデアは
④渋海川の河川整備の促進を
⑤霧谷ゴミ処理場問題

回 南雲町長
①所得税の雑損控除の中で雪害経費が認められている。個人的には幅を拡大してほしい。
②新規事業については話を進めてはいるが、近々実現できる確実な見通しまでには至っていない。
③プログラム編成に意を用いて、楽しさの中にも得点を競う内容を増加させるなどはいかがなものか。
④渋海川は河床低下の現象が相当目だってきている。渋海橋上流部の床止め工事などが必要な状態に近づいた。県管理の区間であるので要望を続けていく。
⑤細かな資料を十日町市から取り寄せ検討する。関係住民のため努力することはもちろんである。川西町の住民のガマンや費用負担は論外である。

◇高橋弥太郎議員
①林道高倉線の開削は
②過疎地域の後継者問題
③高校生の寮のあり方
④関越自動車道バイパスを
⑤農業共済制度のあり方

回 南雲町長
①権現山への道を開削してほしいとのことだが、町道高倉樽沢線はこうばいが急だったり、森林面積が少ないため、林道としては該当しない。松葉平からの場合は土質が悪くたり、植林できる土地が少ないので林道としての価値がない。
町行分収造林の作業道として可能かを検討する。
②後継者問題は仙田振興会あたりで検討してもらい、それから具体的な要請を願いたい。
③中学校の寄宿舎を利用できないかとのことだが、中学校にも事情がある。北原分館が空くので、春のうちから検討し、夏休みまでには見当をつけたい。
④連絡道路というようなものは将来的にも必要ではないか。隣接市町村長や国会議員に働きかけ、努力をしたい。
⑤農業共済事業の広域合併問題であるが、川西町と中里村は町と村、十日町市と津南町は現在組合で事業を行っている。
川西町の共済事業は全国的にも進んでいる。合併問題は資料を整え、具体的に協議していきたい。

◇滋野一郎議員
①自治省指定の十日町地域経済活性化事業の取り組み方
②高齢者事業団を組織する考えは

回 南雲町長
①全国で四十四圏域が指定され、新潟県では、糸魚川と十日町圏域が指定された。
この事業は、これまで市町村単独事業として取り組んでいたものを、第三セクターの活用、民間資金の導入などにより実施するもので、民間活力の引き出しに力を入れている。計画期間は昭和五十九年度から六十三年度までである。
補助事業ではなく、事業債の元利償還費用の一部を普通交付税の基準財政需要額に算入するなどの財政措置や民間には低利の融資等が行われる。
川西町は五十九年度には松葉沢の遊園地整備、中子運動場などの事業を実施する。
②一定の基準（人口五万人以上）があり、川西町の規模ではなかなか設置できない。十日町市には事業団が昭和五十七年に設立されている。
町行造林で七十歳未満の男子を募集しているが、これらを高齢者の雇用開発と受け取ってほしい。除雪組合などでも対応したい。

◇桑原要雄議員
①新農村地域定住促進対策事業の取り組みとモデル事業の見直しは
②霧谷ゴミ捨場への汚泥投棄（答弁不要）
③川西高校遠距離通学生の冬期宿舎（答弁不要）

回 南雲町長
①事業費の補助率は二分の一である。モデル事業との重複実施は認められない。
モデル事業は昭和五十二年度から実施し、五十八年度までの七年間に七億一千二百万円の費用を掛けた。残事業は事業費の自然増などもあり、十九億三千万円もある。総事業費は全国二番目に多い。これに比例しての予算配分だといいのだが……。見直しが必要である。
定住促進事業は過疎や特別豪雪地域などの定住促進のため、企業の誘致活動や生活環境の整備を行う事業で、現状では受け入れたいと考えている。

◇羽鳥欣一議員
①行財政の合理化（固定資産税と日曜役場の開設は）
回南雲町長
①川西町は他市町村に先駆けて臨時行財政調査会を設けた。都合三回の答申が行われたが、これらに対しては蛮勇を振るって推進したい。
事務、事業の見直し等は常に行う必要がある。
固定資産税は現況地目で課税している。
日曜日には日直がいるので、急な用事があった場合は連絡願いたい。

◇平野圭二議員
①国民健康保険特別会計の対応策
②西の山開発問題は
回南雲町長
①へき診会計と水道会計はいずれも一般会計から多額の繰り出しをしており、町財政に大きな影響を及ぼしている。国保会計、診療所会計も昭和五十九年度の収支均衡が懸念される。
国保被保険者負担は五十八年度比二〇パーセント増としている。これ以上の負担は可能かどうか、慎重に検討を行い、結果によっては近い将来一般会計繰り出しも考えなければならない。
診療所会計は収支均衡より病人が一人でも減少することが重要である。予防活動などのために診療実績に多少の落ち込みがあってもしかたがない。
②巣鴨信用金庫の保養施設建設計画は期待したほどに進んでいなかった。上越新幹線の上野乗り入れに合わせて計画を進めるよう内部でも話し合われているとのこと。
金庫の気持ちということで巣鴨文庫の設置が決まった。

道路除雪費に三千五百万円を追加

第二回町議会定例会は、新年度予算の審議が中心でしたが、ほかにも条例の改正や五十八年度会計の補正予算などが審議され、いずれも原案どおり可決されました。
主なものは次のとおりです。

補正予算

▽五十八年度一般会計補正予算（専決第八号）
異常豪雪の除排雪対策と中小企業関連倒産防止の経費が緊急に必要となり、専決処分されていたものです。
三千八百五十八万八千円を追加し、総額を歳入歳出それぞれ二十九億一千七百十一万三千円としました。
道路除雪費の追加は三千五百二十万一千円です。

▽五十八年度一般会計補正予算（第六号）
三百二十九万八千円を減額し、歳入歳出それぞれ二十九億一千三百八十一万五千円としました。
歳出で目立ったものは、衛生費の繰出金が二百八十九万九千円増えたことと、公共土木施設災害復旧費が四百六十七万四千円減ったことなどです。

▽五十八年度国民健康保険特別会計補正予算（第三号）
千九百二万八千円を追加し、予算総額を四億四千九百三十四万円としました。療養給付費は二千二百四十八万二千円増額しています。

▽五十八年度老人保健特別会計補正予算（第二号）
五千四百九十五万八千円を追加し、予算総額を四億五千八百十四万四千円としました。全額医療給付費に充てています。

▽五十八年度仙田へき地出張診療所特別会計（第二号）
一般管理費を八十四万九千円増額し、予算総額は二千七百六十四万円となりました。

▽五十八年度簡易水道事業特別会計補正予算（第二号）
三百十六万五千円の減額で、予算総額を五千十六万九千円としました。各簡易水道の維持管理費を減らしたのが主です。

▽五十八年度水道事業会計補正予算（第四号）
第二期拡張事業費や施設改良事業の追加などがありました。

企業誘致委員会条例を制定

条例関係

▽特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正
日額のものは百円ほどのアップです。

▽町職員の定年等に関する条例の制定
職員の定年を六十歳にしました。医師は六十五歳です。適用は来年の三月三十一日からです。

▽企業誘致委員会条例の制定
企業誘致を促進し、産業振興と雇用機会の増大を図るために、町長の諮問機関として専門委員会を設置することになりました。

▽農業集落排水処理施設の設置及び管理に関する条例の制定
五十九年度の途中から上野地区の一部でこの施設を利用できます。
家庭雑排水を処理する施設です。

▽町議会議員の報酬及び費用弁償等に関する条例の一部改正
議長が月額十四万七千円、副議長が十一万六千円、議員が十万三千円になります。

▽特別職の給与に関する条例の一部改正
町長が月額四十六万五千円、助役が三十六万五千円、収入役が三十五万円に十月からなります。

▽教育委員会教育長の給与及び勤務時間等に関する条例の一部改正
教育長の給料月額は三十万八千円となります。

（次ページへ）

役場機構と事務分掌

		課名	係名	分掌事務
町長	助役	総務課	庶務係	秘書・人事・給与・公告・儀式褒賞・事務合理化・庁内物品購入・庁舎管理（総合センター・克雪管理センター含む）
			文書広報係	広報・文書管理・タイプ・印刷・条例規則・電話管理
			防災交通係	防災対策・防犯・交通安全対策・庁用車管理・消防・防災無線関係
			町史編さん係	町史編さん
		企画財政課	企画係	総合企画・辺地過疎対策・広域事務組合・行財政改革・統計（集中管理）・コミュニティ計画
			財政係	予算・財政計画・町債・地方交付税・決算統計・財政事情・入札契約・普通財産・町営住宅・建物保険・登記
			開発係	企業誘致・土地開発公社・土地開発基金
		税務課	住民税係	町（県）民税・軽自動車税・電気税・たばこ消費税・賦課徴収・滞納処分・国保賦課
			資産税係	固定資産税・木材引取税・固定資産評価
			地籍係	地籍
		住民課	住民係	戸籍・住民基本台帳・印鑑登録・人権擁護・交通共済・国民年金・窓口応接・広域駐車場
			福祉係	生活保護・児童福祉・老人福祉・母子福祉・心身障害・保育園
		産業課	農政係	農業振興計画・農業振興・農産普及・農業構造改善・産米改良・営農融資・農業教育
			林政係	林業振興・治山・保安林・造林・林務災害
			農業共済係	農作物共済・家畜共済・建物共済・農機具共済・動植物防疫・畜産振興・蚕業振興・特別会計予算
			商工観光係	商工業振興・観光・公園管理・町営駐車場管理・水産業振興
			休養施設係	休養施設の管理運営・特別会計予算
		建設課（企業室）	工務係	道路、橋梁の建設・用地買収
			維持係	道路除雪・占用・土木災害・農地災害・地すべり・河川
			計画係	道路、橋梁の計画・道路、橋梁台帳・土地利用・建築一般
			水道係	企業水道・簡易水道・フラッシュ施設・下水道管理・特別会計予算
			農村総合整備係	総合整備計画・実施計画・整備事業の実施
		保健衛生課	衛生係	予防接種・精神衛生・成人病予防・母子衛生・食品衛生・公害対策・伝染病予防・血液対策・衛生施設組合・老人保健
			保健係	保健婦業務・保健指導
			国保係	国民健康保険・保険給付・老人医療・国保得喪・老人医療得喪・特別会計予算
		（千手診療所）	医務係	国保直営診療所業務・へき地出張診療所業務・特別会計予算
	収入役	会計課	会計係	会計事務・決算・備品台帳
議会		事務局		議会事務・監査事務
農業委員会		事務局	農地係	農業委員会事務・農地移動・農業者年金・出稼対策・農用地利用増進・農用地流動化
選挙管理委員会		事務局		選挙事務
教育委員会	教育長	学校教育課	学校教育係	庶務・教職員人事・小中学校の管理運営・学校給食・寄宿舎管理・幼稚園
		社会教育課	社会教育係	社会教育・文化財・公民館・青少協・社会体育・総合体育館・屋外体育施設・民俗資料館

（議会報告）

▽課設置条例の一部改正

川西町の課は、総務課・企画財政課・税務課・住民課・産業課・建設課・保健衛生課の七課になります。

▽副収入役の設置及び定数に関する条例の廃止

規則で収入役の補助組織として会計課を設けました。

▽町議会委員会条例の一部改正

役場の機構改革に伴うものです。

▽手数料徴収条例の一部改正

身分に関する証明、印鑑に関する証明、所得に関する証明、住民票の写し、公簿公図の閲覧などが百円から百五十円に引き上げられます。

▽地域休養施設特別会計条例の制定

松葉荘の円滑な運営と経理の適正を図るため、特別会計を設置します。

▽地域休養施設の設置及び管理に関する条例の一部改正

四月一日から別表のように使用料が改正されました。

このほかに、表彰条例の一部改正など五件の条例が改正されました。

松葉荘の使用料

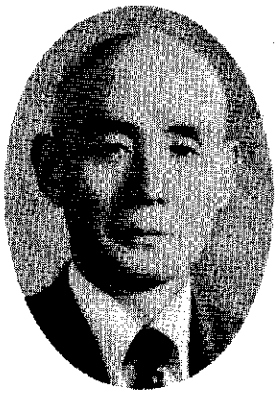
区分	使用料	
宿泊 1人1泊当たり	大人（中学生以上）	2,500円
	子供（3歳未満除く）	2,000
休憩 1人1回当たり	大人（中学生以上）	500
	子供（3歳未満除く）	300
会議 1室1時間当たり	会議室	1,300
	大広間	700
	中広間	600
	宿泊室	300
展望台	1人1回当たり	100
入浴のみの場合 1人1回当たり	大人（中学生以上）	200
	小学生以下	100

（一部省略）

先月末日に『町史こぼれ話』第五集を刊行しました。『川西郷の満州移民』を特集にした今回の誌面は、戦争の悲惨さを如実に物語る貴重な手記で綴られています。「涙なしでは読めなかった」といわれる監修者の竹内道雄教授は、次のような監修のことばを寄せてくれています。（紙面の都合で前・後段の一部を略させていただきました）

「こぼれ話」第五集の 監修を終えて

竹内道雄



この一編は、川西郷の満州移民の歴史であると共に、日本の近・現代史の如実の一面であり、満州を軸にした昭和の外交史であり、地理史でもある。私はこの一編を読んで、歴史的にも地理的にも整然とまとめられた流麗な筆致とその記述方法に驚いたのであるが、同時に川西町出身者の満州における行動と実践については、どれだけの体験の事実を基にして断定的に記述したのであろうかといささか疑義の念が浮かばないでもなかった。

ところが次の論考「仙田開拓団の歩み」以下を次々と読んでゆくうちにこの疑念は微塵に打ち砕かれたのである。それどころかかかる疑義を持ったこと自体が恥ずかしく申し訳けない気持ちになると共に、右の一編を「川西郷の満州移民」史の概説書とするのであるならば、さらにその赤裸々な実相をもっと多く盛り込むべきだったとさえ思うようになったのである。

この集に盛られた五十一編の玉稿を読了することは、私にとって意外に難儀なことであり、いささか時間がかかりすぎたように思える。しかしそれは決して論考の数が多かったということのためのみではなかったようだ。その原稿の一編一編が血涙の体験を通じて綴られた歴史的現実に連なっている記録であり、感想であって、読み進むうちに、自己の往時の戦争体験が想起され、当時の自己の心理を通してその体験の心情が自己に乗り移って万感こもごも至り、稿を置いて歎息することしばしばであったからであろう。ことに八月十五日敗戦以後の体験の記録は、私に一時読むことを中断させたと言ってよい。「五族協和」「王道楽土」の建設を理想とし、その実現を信じて疑わなかった人々にとってソ連軍の侵入という全く「寝耳に水」といおうか「晴天の霹靂」といおうか、言語に絶することが突如として起こり、「王道楽土」は忽ちにして阿鼻叫喚の「地獄絵」と化したのである。私はこれまで広島の原爆、東京・長岡等の空襲、また南方激戦地、ビルマ作戦等々、各方面の戦中、敗戦時の体験の記録を読み、体験談を耳にし、その遺物をも見学した。また引き揚げ者の自分の肉親者からもその体験談を聞いた。いずれも戦争の悲惨さは骨身に徹して感得したつもりであった。しかしこの特集の論考を熟読してゆくと、改めて戦争の悲惨さがほんとうに身近に再認識されてくるのであった。こうした敗戦時における満州での体験の記録をこれ程多く総合的に読んだことがなかったからであろうか。いや川西という身近な郷土の出身者の血涙を通じて綴られた記事であるからであろう。

中でも日本の敗戦を知らずに、ソ連軍に抵抗して全滅した清和村の記事、ことに生みの子供二人を深井戸に投じ、残った二児をかかえてソ連軍と交戦して母子とも射殺された清水倫六さんの奥さんに関する記事は、その時の奥さんの心情と姿を想像して唯悲嘆の涙にくれるほかはなく、戦争の非情、悲惨さをこれ程身近に痛切に感得したことはなかった。このことと共に敗戦後の同胞の屍を越えての逃避行、シベリアの抑留、苦役などは、戦争を超えた人道の問題を、国家性と民族性の問題を世界に提起して止まないものであろう。

一面また満州の原住民の隣人との友好が実を結んで、敗戦後、帰国できるころまでかくまってもらい、特別の苦労もなく却っていたれりつくせりの世話を受けて、無事帰国した中条福栄さんの家族のこと等、これまた戦争を超えた人間友好の尊さを教えてくれる歴史的事実であった。また清水元三さんの「五族協和」の理想を実現する指導者養成の建国大学の内容、そこで学んだ学生の実体験、また同校の閉学宣言文の紹介などは、それと戦争の関係を別にして、新しい意味でのアジア諸国の人々の友好に参考になるのではないかと思われた。

私はこの集に載せられる五十一編の玉稿に対して、一編読むごとに、その題目と執筆者を書き読後の寸評をメモし続けた。そして最後にそれを総合的にまとめて感想を述べて監修に代えようと考えた。しかしそれは私の力量の到底及ぶところではなかったようだ。客観的に冷厳に記述することを任務とする歴史家にとって、三十九年の歳月は、まだまだ短かく、戦争体験の追想は、多くの主観と感情をその中に織り込まざるを得ない心境を消してはくれないからである。こんな意味から私は、読後において特に私の印象から離れなかった数編の寸評のみを記すにとどめた。なにとぞ寄稿者ならびに読者の皆さま方のご海容をいただきたくお願い申し上げたい。

私は五十一編の大量の玉稿を拝見して、歴史というものはこういうものであるか、ということを改めてしみじみご教示を得た思いである。江戸時代の兵学者山鹿素行が「変の至るや知るべからず」と喝破した歴史の特性を平和の生活を享受している今に静かに省みる必要のあることを教えられたことである。それにしても仙田開拓団の団長として渡満しついに帰らぬ人となった登坂久吉さんおよび奥さんを偲んで綴られたご令息の登坂博さんの「父母を偲びて」の文の冒頭に掲げられた詩は、歴史の無常と戦争の非常を人々に訴えてやまぬものであろう。

南米訪問記 ―その②

パラグアイは招く

金子幸作

国境をつなぐ橋　河の向こうは
パラグアイ国だ

パラグアイとブラジル、アルゼンチンの三国境に接するイグアスの滝（幅四キロメートル）は、南回帰線よりも少し下がった南にあり、世界で七番目の大河パラナ河に合流して南大西洋までの長い旅を続ける。この大滝のやや上流に、ブラジルとパラグアイを結ぶ国境の長い橋が架かっている。

ブラジル側の町フォース・ド・イグアスは、外貨獲得のドル箱といわれる滝を持つことに加え、パラグアイの接点にも位して人口十六万人を数える躍進の町である。この町の国境警備隊のわきから検問所を通過し、橋のたもとの「ブラジル国とパラグアイ国は仲良くしよう」と刻んだ記念塔を左に見てパラグアイに入国した。

税関が車を止めて荷物検査をする。そのすぐ前に、国境警備の海軍水兵が立哨していた。いたって友好的で、ブラジル側が国境の橋を「友好の橋」といえば、パラグアイでは「きょうだいの愛情の橋」と呼び、この橋を抜きにした両国の友好は考えられないようであった。目下、共同で世界一のイタイプー発電所（出力一千二百六十万キロワット）を建設中であるが、イタは原語で石を指し、イプーは響きで、両国の友情を伝え合う石の響きを意味している。

「海のない国にどうして海軍があるのか」と聞いたら、「パラナ河は最大川幅が九キロ、水深は百五十メートルもあって軍艦の航行は自由だ。わが海軍はこの河から七つの海に羽ばたく」という勇ましい答えが返ってきた。

パラグアイ国は南アメリカの中部にあり、ブラジルとアルゼンチンにはさまれた共和国で、一八八一年にスペイン領から独立した。住民の多くは原住インディアンとスペイン人の混血で人口は約二百万人、本県から十人が移民している。面積は四十万平方キロメートル、首都はアスンシオン、主な産業は農・牧・林業で、大豆、コーヒー、肉、皮革が知られている。

国境の街はプエルト・ストロエスネルで人口は二万人、首都に次ぐにぎやかさだというが、この国に市町村の区別はない。街の名は、三十年近くも政権を担当するプエルト・ストロエスネル大統領にあやかって命名された。

車を止めると、物売りの少年たちが寄って来て「何か買え」といい、泊まり客と見ればホテルの予約をせがむ。鉄筋建ての大きな観光ミヤゲ店がズラリと並んでおり、香港や台湾から輸入したと思われる衣料、貴金属、置物、文房具、運動用品、頑具などに混じって日本製の商品も豊富に飾られ、昆布やフリカケ食品には「オイシイデスヨ」と日本字の札が付けてある。

金子一家と夜のプエルト・ストロエスネルで

ブラジルには一台もなかった日本製の自動車が、この国ではたくさん目につく。柔・剣道場もあって、「エイッ、ヤッ」と気合の入った掛け声が聞こえてきた。

目玉商品や、大きな会社、工場を持たないこの国は、各国の観光客から外貨を稼ぐことに力を入れ、国によっては入手できない貴重な物品でも「パラグアイへ行けば買える」の国策を推進している姿勢がうかがわれる。

例えば、ブラジルでは日系人の間で野球が盛んだが、政府はこれをゼイタクな遊びと見るのか、ボールやバットには高い税金をかけており、日本製の用具は国内で入手できないものが多い。それがパラグアイに来れば何でもそろっていて安く買えるのである。

どの店も活気にあふれ、舗道には露店や屋台店が並んでアメ横的なにぎわいを見せている。麻薬や娯楽施設などに禁止措置がなくて、マリファナ入りの煙草も売られているが、自由だとかえって自重するのか犯罪はなく、遊び人や中毒患者もあまりいないと聞いた。

ブラジルの町が午後十一時に閉店しても、パラグアイに渡たればまだ十時で、一時間の時差が夜の買い物を楽しませてくれる。ネオンの横文字もスペイン語で河一つ隔てるとこうも違うかと驚く。この日系や中国人は戦前の移住者らしく、先の世界戦争もどこ吹く風の人が多いようだ。

国内における小麦の総生産量よりも、輸出する小麦の量がはるかに多い不思議な国である。足りない麦はほとんどがブラジルからヤミで運び込まれ、このヤミ麦がパラグアイ産となって、ブラジル国のサントス港から各国に輸出されるという奇妙さなのである。

自動車でヤミ麦を運ぶと国境の検問に会うが、歩行者の場合は見ても見ぬふりで、大ぜいの運び屋が橋を往復して禁制品を運ぶ。この方法を「アリ戦術」といい、不足しているセメントや大豆もこうして持ち込まれる。白昼堂々と、あるいは夜陰に乗じて、密輸船が河の両岸を往復するともいう。

ブラジルの日系人に発展を学んでいるパラグアイは、日本人に大きな期待を寄せており、政府の方針で日本語の農業パンフレットを作り、日本からの農業移民を歓迎している。人跡未踏の原生林が無限にあり、一万五千円も出せばおよそ一町歩が楽々と手に入る。

ぼくのガイド役を勤めたジョズエ・マラン君に、「カネーコ、パラグアイに残らないか、移民を歓迎するだけでなくて、女性がともも親切な国だよ」といわれて初老の身がムズムズした。

おわび・訂正

前号の六ページ、大平洋でなくて大西洋回り（一段目）、ジャポニーズでなくてジャポネース（三段目）、七ページ上段の写真中イクさんはトキさんの誤りでした。

卒業証書を手に感慨新た

川西中学校 百五十五人が巣立つ

川西中学校の卒業証書授与式が、先月十四日に行われました。

今年は二十三回目で、男子八十八人、女子六十七人、合わせて百五十五人が学窓を巣立ち、自分で決めた道を歩み始めました。

雪上レク大会でハッスル

今年の町民雪上レクリエーション大会は、先月二十五日に仙田小学校雪上グラウンドで行われました。

この日は天気も上々、二人三脚、血圧レース、アベックかんじき競争などに、選手も応援も大ハッスルしていました。

アベックかんじき競争

4月1日、沖立にて

消雪剤まきは重労働

自然消雪を待てば五月中旬くらいになりそうとのこと。これでは農作業がたいへんになります。そこで町と農協、それに生産組合、農家の皆さんが一体となり、消雪剤をまきましたが、重労働でした。

川西町の積雪状況　（単位：cm）

月　日	59　年	58　年	57　年	56　年
3・5	320	195	137	373
3・10	382	190	118	380
3・15	370	190	88	338
3・20	340	174	62	324
3・25	335	147	52	282
3・31	308	115	40	256

ひろば

ようやく春めいた陽気になってきましたが、雪は7日の午前9時現在まだ264cmもあります。この分だと消雪日は5月の中旬に入ってしまうとのこと。

豪雪の影響は、農作業の遅れや道路の傷みなどとなって現れてきます。なだれや融雪による川の増水にも注意が必要です。

「公開発明工作教室」 ふるってご参加を

十日町少年少女発明クラブでは、公開発明工作教室を次により開きます。ふるって参加ください。

○日時　四月二十一日（土）　受付　午後一時三十分から二時まで

四月二十二日（日）　受付　午前九時から九時三十分まで　午後一時から一時三十分まで

○会場　十日町市理科教育センター（十日町中学校内）

○活動　紙工作（紙トンボ、UFO、たこなどの製作）

○参加料　無料

〝青い鳥はがき〟はいかがですか

郵便局では、身体障害者福祉強調運動にちなみ、〝青い鳥はがき〟を四月二十日から発売します。

このはがきは、郵便局で販売するほか、重度の身体障害者の方から申し出があれば、一人に二十枚を差し上げます。

身体障害の程度が一級または二級の満六歳以上の方で、このはがきを希望される方は、お近くの郵便局に身体障害者手帳を持参し、五月三十一日までに申し出てください。（代わりの方でもけっこう）

「宮沢賢治の世界」 女優・林洋子さんが出前

ハープの音に合わせて語る「宮沢賢治の世界」。

女優の林洋子さんが〝語りの出前〟を始めてから五年になります。「テレビでは得られない生の感動がある」と口コミで伝わって、全国各地から招かれ、それにこたえてどこへでも出向くので、「出前公演」と称されています。

この公演が、ミヤコヤ川西店によって次により実現します。

＊日時　四月二十九日　午後一時から

＊場所　総合センター

＊入場料　無料

ガイド情報

5月1日～7日 山火事予防運動

「燃やすまい みんなの暮らしに いきる山」

消防川西分遣所と川西町消防団では、五月一日から七日まで山火事予防運動を実施します。

これからは空気が乾燥し、風の強い日が多くなります。また雪消えとともに山菜採り、田畑の周囲の枯れ草焼きなどで入山することが多くなります。火の取り扱いには十分注意してください。

注意事項

①たき火の後始末は完全にする
②たばこの吸いがらは必ず消す
③車からたばこの吸いがらを投げ捨てない
④強風や乾燥時、また枯れ草などのある危険な場所ではたき火をしない。
⑤火災とまぎらわしい行為をするときは、川西分遣所へ届け出る

電気料金などの特別措置 東北電力から

東北電力では、五九豪雪により災害救助法が発令された市町村で、屋根が損壊したなどの被災をされた方に対して、次のような特別措置を行うことになりましたので、申し出てください。

▽電気料金の早収料金適用期間の延長

一月分（早収料金適用期間の期限日が二月七日以降となるものに限る）、二月分、三月分の早収料金適用期間をそれぞれ一か月延長します。

▽不使用月の電気料金の免除

被災時から引き続き五十九年八月分までの間において、まったく使用しない場合の電気料金は免除します。

▽工事費負担金の免除

被災前と同一場所に同じ契約内容で、五十九年八月末日までに電気の使用を申し込まれた場合は、工事費負担金を免除します。

このほかに臨時工事費の免除などがあります。

▽問い合わせ先

東北電力十日町営業所（☎52―3107）へ。

持家住宅建設資金を貸し付けます ―県から―

▼貸し付けの条件

次の条件のすべてに該当する人は貸し付けを受けられます。

○県内に自ら居住するため、木造の住宅を建設（新築購入・増改築を含む）しようとする人
○資金の貸し付けを受けなければ住宅を建設できない人で、前年一年間の収入金額または、所得金額が次の額以下の人

・給与所得のみの人
　収入金額　五百万円
・その他の人
　所得金額　三百五十五万円

○住宅部分の床面積が五十平方メートル以上百六十五平方メートル以下の木造住宅を建設する人
○住宅金融公庫の昭和五十九年度第一回個人住宅資金の融資を受けて木造住宅を建設する人（増改築については公庫利用を問いません）

▼貸付内容

・貸付限度額　新築　四百万円
　増改築　百万円
・利率および償還期間
　年六・〇％　十年以内

▼受付期限

四月二十八日（土）まで

▼申込書の頒布・受付

最寄りの取扱金融機関の窓口

わしの自慢

アヒルはわが家の人気者

坪山 高橋力夫さん

高橋さんは坪山の区長さんである。三月の末に文書配りに行き、庭先で今では珍しいアヒルを見かけた。

そこで、八十二歳のおばあさんと、長男の奥さん、それにお孫さん三人に家の中から出ていただき、近所の子供一人が加わり、人気者のアヒルを抱いての写真撮影となった。

高橋さんがアヒルを飼い始めてから三年くらいたつ。

「小千谷に行っている息子が自分のところで飼えなくなったオスとメスの二羽を家へよこしたんです。去年の六月にはメスが一羽ひよけましてね」

高橋さんの家には池が二つあり、冬は浅いほうで飼っている。

「二月二十日に親のメスがたぬきにやられましてね。これも豪雪のせいでたぬきがエサを求めに出てきたためです」

アヒルは水さえあれば飼えるとのこと。

「エサはパンクズを一日一回か二回やります。残飯でもいいし、野菜くずでも茶ガラでもなんでも食べます」

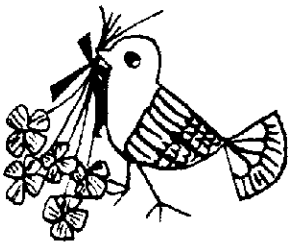
雪が消えれば二百メートルくらいの範囲で遊びに出るという。車の通る道には行かないそうだ。毎日エサをやる奥さんにはなついていて、ガアガアいいながら後追いもするとのこと。

「春の彼岸から秋の彼岸までは毎日卵を生むんですが、今年はちょっと遅いです。雪のせいでしょうか、配合飼料をやらないせいでしょうか。卵は生むものじゃなくて生ませるものなんです」

この二羽は親子だが、今では夫婦気どりでいる。

アヒルはじっとしていません

善意



次の善意が寄せられました。

◆一般寄付金

※大久保義信さん（野口）から、校医手当（歯科）の百二十三万二千三百四十二円

※登坂邦雄さん（岩瀬）から十万円

◆社会福祉協議会へ

※大平剛士さん（原田）から二万円

※茂野喜一さん（宝島）から二万円

※茂野忠治さん（高原田）から二万円

※星名美信さん（学校町）から三万円

※木島にお住いの方から一万円

3月の交通事故発生件数

		累計	
件数	3 (3)	3	(7)
傷者	3 (3)	3	(8)
死者	0 (0)	0	(0)
酒よい	0 (0)	0	(1)
酒気おび	0 (0)	0	(0)

（）内は前年比較

庁内人事

※退職／三月三十一日付

▽滋野定良（健康管理室長）、▽水品忠雄（産業課長）、▽押木良作（社会課長）、▽和久井守（税務課長）、▽星名四郎（体育館長）、▽羽鳥栄一（用務員）、▽市川トイ（用務員）

※配置換え／四月一日付（管理職のみ）

▽総務課長（建設課長）高橋良平、▽税務課長（収入役室長）上村健一、▽産業課長（議会事務局長）須藤秀雄、▽保健衛生課長（農業委員会事務局長）須藤良平、▽千手診療所事務長（同参事）小林力、▽会計課長（税務課参事）小林英一、▽住民課長（社会課参事）山田五作、▽企画財政課長（企画室長補佐）北村準一、▽建設課長（建設課長補佐）高橋已二、▽議会事務局長（総務課長補佐）関口良平、▽学校教育課長（庶務課長）押木秀治

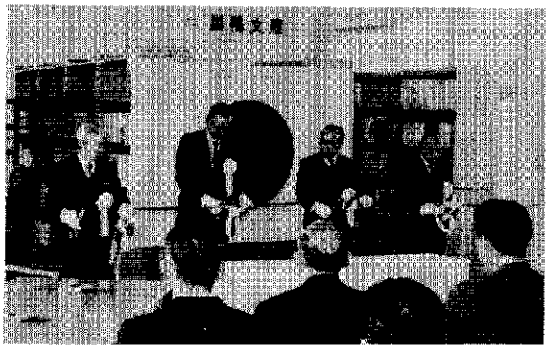
▽総務課長補佐（産業課参事）高橋英雄、▽企画財政課長補佐（産業課副参事）南雲直秀、▽税務課長補佐（建設課参事）櫃間富雄、▽住民課長補佐（社会教育係長）田村俊一、▽産業課長補佐（産業課副参事）宮昭一、▽産業課長補佐（産業課参事）丸山惣吉、▽建設課長補佐（災害河川係長）大塚甚一、▽保健衛生課長補佐（健康管理室参事）中村義雄

※新採用／四月一日付

○富井敏、○南雲浩、○渡辺正彦、○清水幸、○小幡敏男、○蔵品勝雄、○高橋玲子

町内さんぽ

川西中に「巣鴨文庫」がオープン



テープカット

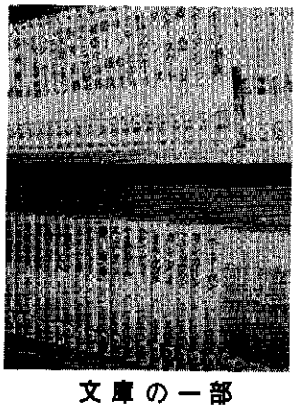
東京の巣鴨信用金庫から贈っていただいた一千万円分の図書を川西中学校の図書室に備え付け、「巣鴨文庫」として先月三十日にオープンさせました。

「巣鴨文庫」のきっかけは、昨年八月、巣鴨信用金庫の田村理事長から「川西町のために役か役立つものは」との温かい申し出をいただき、町でいろいろ話し合った結果、「町の大ぜいの人が利用できるものとしては文庫を」ということになり、決まったものです。

贈られた本は、成人向け八百十四冊、中学生向け千二百八十冊、小学生向けが三千五百八十一冊、合わせて五千六百七十五冊にもなります。このほか、本の納入業者からも六百七十八冊の幼児向け図書をいただきました。

開館式で、町長は「テレビの普及で本に接する機会が薄らいでいる。人間形成のために文庫を活用してほしい」とあいさつし、田村理事長は「川西町をふるさとのように感じている。文庫を皆さんの手ではぐくんでください」と話されました。

「巣鴨文庫」は、成人向け図書は各公民館で、中学生向けは図書室で、小学生向け図書は巡回文庫として各小学校で利用していただくことにしています。



文庫の一部

心配ごと相談

- 4月18日……克雪センター
- 4月25日……総合センター
- 5月2日……上野連絡所
- 5月9日……橘出張所

※時間は午後1時から3時まで

行政相談

- 4月25日……総合センター

9月まで毎月最終水曜日に総合センターで行政相談を行います。時間は午後1時から3時まで、相談員は富井源蔵さんです。

停電のお知らせ

- 4月17日（火）／午前9時から午後1時まで、坪山・霜条・鶴吉。

くらしとけんこう

ストレス解消法

心の健康シリーズ ④

私たちが幸福な日常生活を送るためには、心身ともに健康でなければなりません。しかし、複雑な現代社会の中で毎日の生活を営んでいる私たちは、絶えず緊張感や対人関係のひずみにさらされ、体の疲れ、心の疲れを避けることができません。

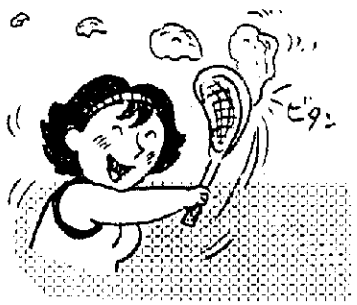
不安などいろいろの刺激が起こると、私たちの体はこれに対処しようとして血圧が上がるなどの緊張状態になります。この反応を起こしている状態を「ストレス」といいます。これが長く続くと心身に重大な影響が及んできます。

ストレスは、狭心症、高血圧、心不全、胃かいようなどの発端となりがちです。また、心身症やノイローゼとも深い関係があるといわれています。これらの持病のある人は、疲労を早く回復させる必要があります。

心の健康を保つには

①失敗にくよくよしない
②難事に正面からぶつかる
③余暇を楽しむ
④話し合える友達を持つ
⑤十分の睡眠を取る
⑥趣味を持つ

これらのことを頭に置き、疲労を蓄積させないように心がけることがたいせつです。レクリエーション、スポーツなど自分の好きなもので気分転換を図ったり、人間関係のわだかまりは洗いざらい打ち明け、心をさっぱりさせることがストレス解消の効果的な方法です。



戸籍の窓から

たかさご―ご円満に

◎新郎 高橋 順治 田中町
◎新婦 菅井 伸江 栃木県から
◎新郎 星名 和弘 伊勢平治
◎新婦 江口 恵子 小白倉から
◎新郎 金井 道廣 室 島
◎新婦 村山ハルミ十日町市から
◎新郎 野澤 秀樹 野 口
◎新婦 富樫 恵子 山形県から
◎新郎 丸山 安彦 霜 条
◎新婦 池田 幸子十日町市から
◎新郎 田中 昭 発電所通西
◎新婦 和田 弘子 山形県から

うぶ声―おすこやかに

◎新郎 小林 定夫 中仙田
◎新婦 山岸たみ子 寺 尾から
◎新郎 太田 重敏 寺 尾
◎新婦 太田千賀子 寺 尾から
◎新郎 増田 寿男 室 島
◎新婦 神田 裕子 沖縄県から
◎新郎 中村 貴夫 岩 瀬
◎新婦 田中るみ子 青森県から

昇天―ごめい福を祈る

内山 瑠依（るい） 幸三 長女下平新田
羽鳥 由香（ゆか） 信一 長女 木 落
山家 崇（たかし） 実 長男 木 落
高橋 光子 霜 条 一
柳 タカ 中島町 六四
数藤 キヨ 沖 立 六四
茂野 喜好 室 島 七二
清水 イネ 下平新田 七四
渡辺 栄 上 野 七六
樋口 トラ 中仙田 七九
星名 美昌 学校町 八〇
茂野 ラク 高原田 八六
南雲 角治 中仙田 九〇
登坂 ヨ子 岩 瀬 九二

かわにし俳壇

太田白南風選

野口 野沢寅生

つかの間の日の入る佛間春彼岸
室の梅大鉢小鉢彼岸寺
囲なお固きにほうけ猫柳
ふっくらと雪をかむりし彼岸寺

三領 高橋たかし

行商の飾菓子買う彼岸入り
四五人の茶呑仲間に日脚のぶ
春めくやそれぞれの用重なりて
金婚を迎えし夫婦春炬燵

霜条 星名 星光

雪割れば紅艶やかな牡丹の芽
雪九尺堀り出し三月菜のみどり
雪壁の層年輪のごとくあり
本堂の庇も雪に埋りし

中仙田 左木人

スコップを天に向け振り雪卸す
野兎の恋雪にもつれて行きし跡
二階より隣家も見えぬ雪の嵩

慶事のため仙台に遊ぶ

行人に風花舞うや青葉城

三領 水品 律

お彼岸の迎え火雪に燃えくづれ
春彼岸雪に供華挿す墓なりし
草餅に遅き越後の春しかと
街灯のまどかにおぼろ村おぼろ

岩瀬 小川 益業

卒業へ晴着の母ら若やぎて
受験子へ心もとなき春の雪
垂れ下る雪庇の下の野兎の跡

赤谷 小川 秀

魚沼路雪壁汚る彼岸かな
着ぶくれて爺婆つづく彼岸寺
見せ合うて炬燵仕事の毬を刺す

千手 よし子

たたみける傘に消えたる春の雪
汚れたる層を重ねて雪の壁